

令和2年7月豪雨にかかる 日本赤十字社の対応等について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

目次

1 災害の概要

- (1) 概要 . . . 3
- (2) 災害救助法の適用 . . . 3
- (3) 被害状況 . . . 4

2 日本赤十字社の主な活動状況

- (1) 職員の派遣状況 . . . 5
- (2) 救援物資の配布状況 . . . 13
- (3) ボランティアの活動状況 . . . 14
- (4) 義援金の受付 . . . 17

1 災害の概要

(1) 概要 [気象庁情報]

- ・7月4日、熊本県及び鹿児島県に大雨特別警報が発表された。
- ・同月6日、福岡県、佐賀県及び長崎県に、同月8日、岐阜県及び長野県に大雨特別警報が発表された。

(2) 災害救助法の適用 [内閣府(防災担当)情報]

- ・全国で9県98市町村に災害救助法が適用。

災害救助法が適用された都道府県

山形県、長野県、岐阜県、島根県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県

1 災害の概要

(3) 被害状況 [消防庁情報]

ア 人的被害

(ア) 死者	84 人
(イ) 行方不明者	2 人
(ウ) 負傷者	80 人

イ 住家被害

(ア) 全壊	1,620 棟
(イ) 半壊	4,509 棟
(ウ) 一部損壊	3,594 棟
(エ) 床上浸水	1,652 棟
(オ) 床下浸水	5,173 棟



氾濫した球磨川の濁流にのみ込まれた人吉市の繁華街(熊本県)

©Atsushi Shibuya/JRCS

2 日本赤十字社の主な活動状況

(1) 職員の派遣状況

ア 救護班

(ア) 派遣数 34班

(イ) 派遣期間 7月4日～8月3日

(ウ) 派遣元 11支部、13施設

熊本県支部(熊本赤十字病院)、福岡県支部(福岡赤十字病院・今津赤十字病院・嘉麻赤十字病院)、大分県支部(大分赤十字病院)、佐賀県支部(唐津赤十字病院)、山口県支部(山口赤十字病院)、長崎県支部(日本赤十字社長崎原爆諫早病院)、沖縄県支部(沖縄赤十字病院)、広島県支部(広島赤十字・原爆病院)、香川県支部(高松赤十字病院)、徳島県支部(徳島赤十字病院)、宮崎県支部(宮崎大学付属病院)

(エ) 派遣先 人吉市、球磨村、芦北町など

2 日本赤十字社の主な活動状況

イ 日本DMAT

(ア) 派遣数 20班

(イ) 派遣期間 7月3日～7月22日

(ウ) 派遣元 13施設

鹿児島赤十字病院、熊本赤十字病院、京都第一赤十字病院、高知赤十字病院、徳島赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、松山赤十字病院、京都第二赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センター、山口赤十字病院、岡山赤十字病院、神戸赤十字病院、長浜赤十字病院

(エ) 派遣先 人吉市、球磨村、芦北町など



[左上]

マスク及びグローブを活用して診療にあたる救護班員（熊本県）

[右上]

避難所で活動する救護班員（熊本県）

[右下]

救護所で活動する救護班員（熊本県）



2 日本赤十字社の主な活動状況

ウ 日赤災害医療コーディネートチーム

(ア) 派遣数 26チーム

(イ) 派遣期間 7月7日～8月1日

(ウ) 派遣元 3支部、3施設

熊本県支部(熊本赤十字病院)、佐賀県支部(唐津赤十字病院)、
岡山県支部(岡山赤十字病院)

(エ) 派遣先 熊本県庁、人吉医療調整本部、
球磨村保健医療調整本部など

2 日本赤十字社の主な活動状況

エ 都道府県災害医療コーディネーター

(ア) 派遣数 2人

(イ) 派遣期間 7月4日～7月9日

(ウ) 派遣元 1施設

熊本赤十字病院

(エ) 派遣先 熊本県庁

2 日本赤十字社の主な活動状況

オ 内閣府調査チーム(※)への職員派遣

(ア)派遣数 10人

(イ)派遣期間 7月4日～8月9日

(ウ)派遣元 本社、2支部、3施設

本社(日本赤十字社医療センター)、群馬県支部(前橋赤十字病院)、
埼玉県支部(さいたま赤十字病院)

(エ)派遣先 熊本県

※被災地において、関係省庁及び被災地方公共団体と緊密な連携をとりつつ、主に次に掲げる任務にあたるもの。

内閣府との協定に基づき、日本赤十字社の医師等が同チームに帯同。

- ・被災地の調査及び被害情報その他の現地情報の収集
- ・被災地方公共団体が行う災害対応に関する支援

2 日本赤十字社の主な活動状況

カ 関係機関への職員派遣

(ア) 派遣数 65人

(イ) 派遣期間 7月4日～8月3日

(ウ) 派遣元 本社、6支部、2施設

本社、熊本県支部(熊本赤十字病院)、長崎県支部、佐賀県支部、
広島県支部(三原赤十字病院)、岐阜県支部、山形県支部

(エ) 派遣先 内閣府、厚生労働省DMAT事務局、
熊本県庁、佐賀県庁など



[左上]

人吉市内の避難所にて武田防災担当大臣の視察に随行する日赤職員（熊本県）

[左下]

内閣府で業務調整に従事する日赤職員（東京都）

[右下]

厚生労働省DMAT事務局で業務調整に従事する日赤職員（東京都）



2 日本赤十字社の主な活動状況

(2) 救援物資の配布

ア 配布物資

(ア) 毛布 2,268枚

(イ) 安眠セット(マット、枕、アイマスクなど) 997セット

(ウ) 緊急セット(マスク、懐中電灯、歯ブラシなど) 1,238セット

(エ) その他(タオル類など) 5,651枚

イ 配布元

熊本県支部、鹿児島県支部、佐賀県支部、長崎県支部、岐阜県支部、大分県支部、福岡県支部、秋田県支部、宮城県支部、山形県支部、

ウ 配布先 人吉市、球磨村、芦北町など

2 日本赤十字社の主な活動状況

(3) ボランティアの活動

ア 活動者数 501人

イ 活動期間 7月4日～8月1日

ウ 派遣元 7支部

熊本県支部、佐賀県支部、長崎県支部、東京都支部、大分県支部、
鹿児島県支部、福岡県支部

エ 活動場所 人吉市、八代市、など

オ 活動内容 災害ボランティアセンター支援など



[左上]

熊本県支部内で救援物資の配送準備を行う赤十字奉仕団員（熊本県）

[右上]

救援物資の積み込みを行う防災ボランティア及び日赤職員（熊本県）

[右下]

八代市災害ボランティアセンターで受付補助を行う赤十字奉仕団（熊本県）



2 日本赤十字社の主な活動状況

職員・ボランティアの派遣



救護班
54班(297人)を派遣
※日本DMAT(20班)含む



災害医療
コーディネートチーム
26班を派遣



支部支援要員
6人を派遣



防災ボランティア
501人が活動

救援物資の配布



毛布
2,268枚



安眠セット
997セット



緊急セット
1,238セット



タオル類等
5,651枚

2 日本赤十字社の主な活動状況

(4) 義援金の受付

日本赤十字社では被災された方々を支援するため、義援金を受け付けております。

皆様方からお寄せいただきました義援金は、被災都道府県が設置する義援金配分委員会を通じ、全額を被災された方々にお届けします。

受付期間や受付状況等については、[日本赤十字社ホームページ](#)をご覧ください。